

第5回「こえる場！」ニュースレター

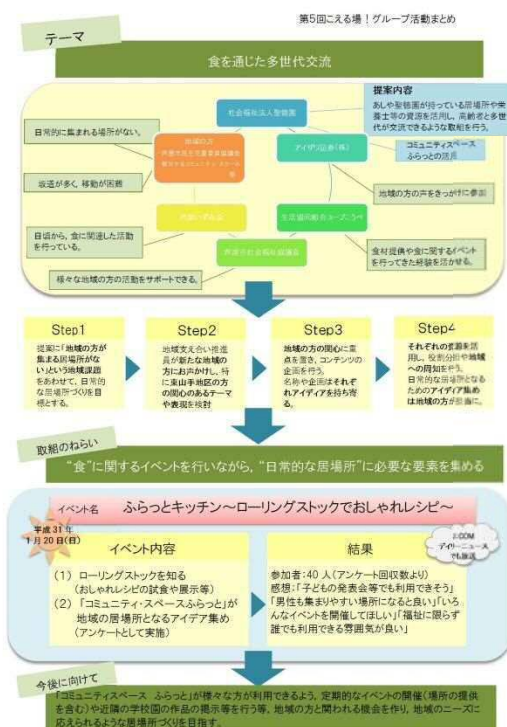


日時：平成31年3月15日（金）午後2時30分～午後5時
場所：芦屋市役所東館3階大会議室

「こえる場！」のあゆみ



食を通じた多世代交流



<芦屋市民生児童委員協議会 田中さん>

朝日ヶ丘町の長い坂の途中で少し休む場所ができるということで、参加しました。特に男性は行くところがないため、イベントで終わらず、継続的に活用できる場になるといいと思います。



<(福)聖徳園 船寺さん>

普段出会うことのない企業の方々と検討したことで、企画の幅が広がりました。今後も、地域のコミュニティづくりなどに「ふらっと」が活用してもらえるよう、地域住民等と一緒に検討していきたいです。



<アイザワ証券(株) 矢野さん>

お客様の「地域で集まる場所を作りたい」という思いとグループの活動が一緒だったので、お客様に意見を伺いながら活動に参加し、イベントの様子をご報告しました。



全世代が助け合う、活気あるコミュニティづくり(多世代共助)

第5回こえる場！グループ活動まとめ

テーマ

全世代が助け合う、活気あるコミュニティづくり(多世代共助)



Step1

多世代共助実現のモデルとして高浜第二集会所を選定。

Step2

集会所の現状について利用・支援者に会い、多世代が交流できるコミュニティづくりへのお話を聞く。

Step3

集会所運営やイベント企画を行う担い手不足という問題に行き着く。

Step4

住民のニーズ把握・人材発掘のため、アンケート調査を実施することを決定。

取組のねらい

イベントに乗じてニーズの把握・人材の発掘を目的としたアンケート調査を行う

イベント名 ひなまつり(3月3日)

内容

芦屋浜自治連合会のちらし作り併せて、武庫川女子大学・芦屋市とでワークショップ開催。複数のブース(塗り絵や豆蔵みゲーム、アンケート等)を設置し、スタンブラー形式で回ってもらう。

結果

・参加人数 58人(前年の約2倍)。
・「楽しかった」「おかげで」との声を多くいただいた。
・42人から、企画のアイデアやスキル、協力意欲について回答を得られた。
・この中で、企画から参加したい、なにかは手伝えるとの回答が一定数あり。

高浜での取組を全市に広げられるように！

今後に向けて

アンケート結果を元に今後のイベントの企画立案を行う。当面は集会所運営に係る担い手(協力者)の発掘を目標とする。

＜芦屋市企画部市民参画課 御宿＞

持続的な多世代共助をどうすれば実現できるのか、仕組みの構築に着目して進めました。

アンケート結果を基に、子どもと一緒に地域の人を巻き込むなど、取組を考えていきたいです。



＜(特非)さんびいす 大脇さん＞

自治会を中心に大学・NPO・行政の色々なセクションが関わっている中、学生のフレッシュなアイデアを活かして取り組んでいることが特徴です。



世代をこえた人生を豊かにする学び

＜(学)芦屋大学 中村さん＞

体験・経験・遊びなどいろんな学びがいろんな所で提供されていることを知ってもらい、新たな継続的な学びにつながっていくようイベントを開催します。



＜阪急阪神ホールディングス(株) 角田さん＞

1つの団体だけではできないことが、地域の力を合せれば、多岐に渡る視点でこんなおもしろいことができるんだということを感じました。



＜地域福祉アクションプログラム推進協議会 安宅さん＞

イベントでは豆つかみゲームを企画しています。認知症予防の効果がありますが、小学生に一番人気があります！



＜(一社)コミュニティ援助センター 上野さん＞

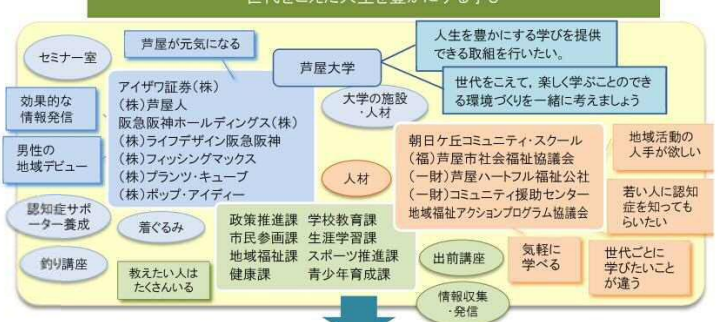
大学と地域の連携が実現しました。イベントでは「家族会議を始めませんか」という呼びかけをします。



第5回こえる場！グループ活動まとめ

テーマ

世代をこえた人生を豊かにする学び



Step1

・学びたいこと
・自分たちの「できること」「したいこと」を協議

Step2

・学びの理想の姿を共有
・「足りないもの」「あつたらいいもの」を協議

Step3

・継続した学びを提供できる取組の足掛かりとしてイベント開催を決定

Step4

・学びの広がりや集客を考慮し、イベントの実施場所や企画を検討

取組のねらい

体験・経験・遊びを含め、様々な学びを通して、芦屋を元気にする取組を知ってもらう

芦屋まなび場！フェスティバル in 芦屋大学

イベントの内容

・様々な「まなび」や「体験」を提供します。
・ミステリーツアー、スタンブラーを同時開催！グループ参加企業・団体等からの協賛品を景品として用意しています。

結果

3月17日(日)開催！
アンケートを実施し、ニーズ等を把握する。

学びの理想の姿
★学びたいときに学びたいことが学べる
★学びが継続される
★学んだことが実践される
★年代をこえて一緒に学べる

今後に向けて

イベントの結果を踏まえ、学びの取組や拠点を充実していく

育児中の親の気分転換・交流ができる環境づくり



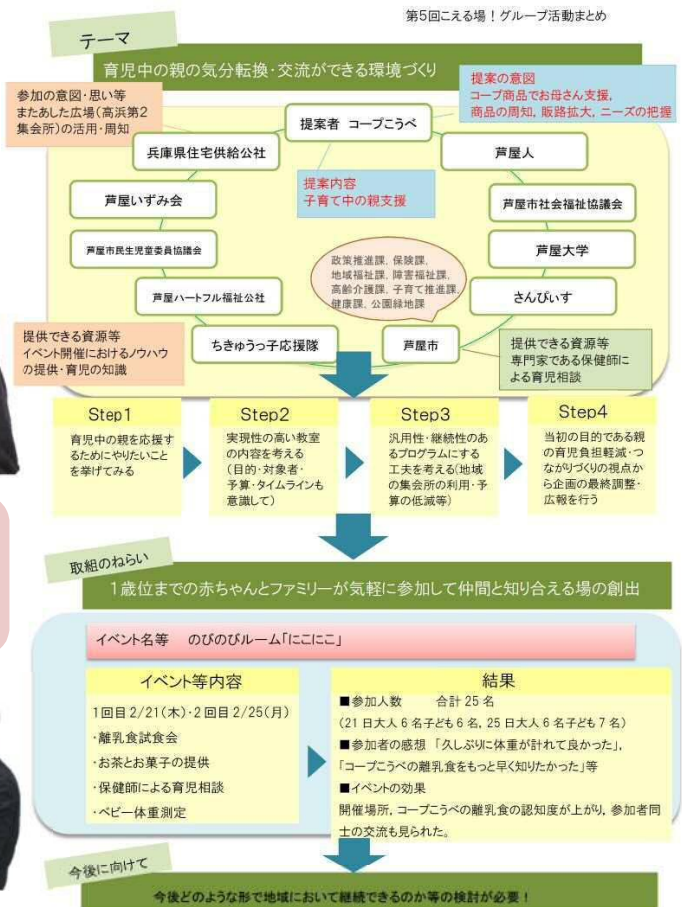
＜生活協同組合コープこうべ 佐藤さん＞
お母さんを応援する企画を考えたいと思い、集まったグループです。気軽に来てほっこりできることを意識して検討を重ねました！

＜芦屋市民生児童委員協議会 岡本さん＞
お母さんたちが連絡先や情報交換する様子が見られ、とてもよかったです！今後いろんな場所で活動が広がればいいなと思います。

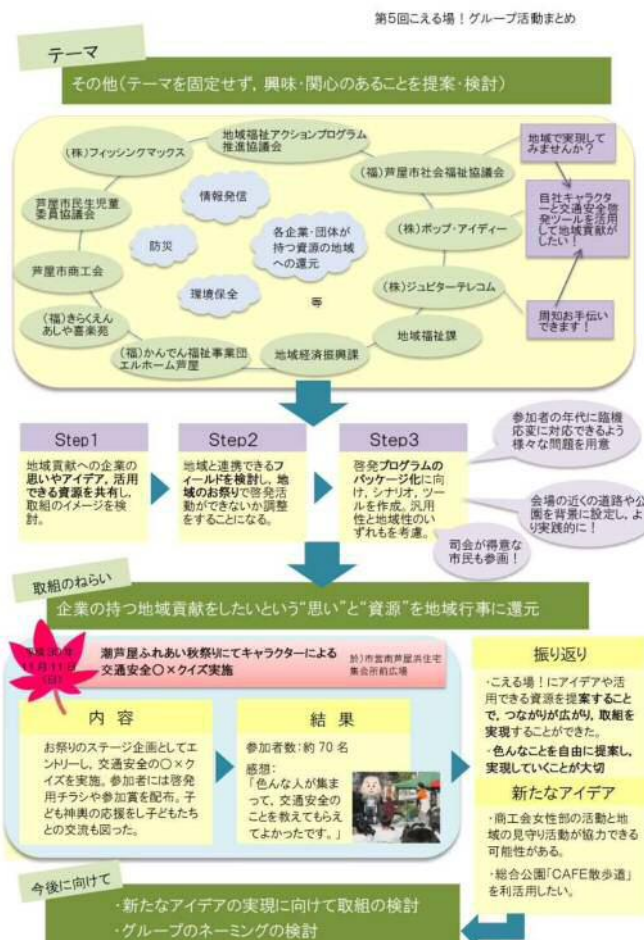


＜ちきゅうっ子応援隊 池内さん＞
我々の世代が参加することで、孫を預けたような気持ちでお母さん方にも安心してもらえたと思います。

＜(一財)芦屋ハートフル福祉公社 針山さん＞
イベントのちらしを作りました！
今後はハードに依存しないイベントを考えていかなければいけないと思いました。



その他(テーマを固定せず、興味・関心のあることを提案・検討)



＜(福)芦屋市社会福祉協議会 山岸さん＞
企業のつぶやきを拾って、既存の資源を活用し、具体的な活動につなげることを意識して取り組みました！



＜(株)ポップ・アイディー 田中さん＞
イベントでの司会等、苦手分野をたくさんの人に支えてもらえ、ありがたかったです！子どもたちはよく話を聞いてくれました！！

＜芦屋市商工会女性部 木村さん＞
女性部の活動を、より社会貢献につながるものに変えていこうとしているタイミングで「こえる場!」に出会いました。総合公園の「CAFE散歩道」の活用やスキルの高い市民の活躍についても検討していきたいです。



パネルディスカッション

「こえる場！」に 今後期待すること

進行



こども・健康部
健康課 細井



福祉部 地域福祉課
鳥越

パネラー



アイザワ証券(株)
今野 氏

【成果】① お客様のことを知るためにも、芦屋市を知ることが大切だと改めて分かった。② 普段接することのない企業・団体・行政等とつながり、様々な意見を聞くことができ、刺激を受けた。

【印象に残ったエピソード】行政内の課をこえた取組として、大変なこともあると思うが、様々な意見を集約し、フェスティバル開催につながったこと。

【今後】イベントの開催で終わることなく、取組を継続することで、周知にもつながると思うので、場の継続を期待している。

【成果】① つながりを生かして、法人だけではできなかった「食を通じた多世代交流のイベント」を開催することができた。② 住民から、「交通の便が悪い、坂道が多い」等の地域課題について提起され、改めて課題を認識し、災害時に、高齢者や子どもをどのように支援していこうか考えさせられるきっかけとなった。

【今後】地域の若い人の力をどのように取り込んでいくのが課題であり、地域にいかに関与していくかを検討していきたい。また、「ふらっと」を幅広く市内で広げていきたいと思う。

(福)聖徳園
伊窪 氏



阪急阪神ホールディングス(株)
石原 氏

【成果】アウトカムの一つとして、普段つながれない方(特に社会福祉法人)と一緒に取り組むことができた。

【エピソード】オフサイトミーティング的につながっている場に参加した。個人ベースのつながりを広げていくことが大切だと感じている。

【期待すること】地域密着の企業は、地域に寄り添っていく方法を模索している。単なるCSR、営業活動をこえて、課題解決に向けて新しい事業の創出等が大切であり、立場をこえて取り組むためにも、参加者が仲良くなることが大切である。

【成果】平野先生から「新しい取組に挑戦してみては」と提案してもらい、単にコストカットを目指すのではなく、「こえる場！」の取組につながり、大成功だと感じているし、このまま続いていくと思っている。行政内では、「こえる場！」に参画すると、企業等と一緒に何かできるという期待感や本来業務に還元されるということが浸透してきている。

【今後】オフサイトミーティングのような場も含めて、みんなが自然と自由に集まっていける場になっていけばいいと思う。



企画部 政策推進課
中西

「こえる場！」に今後期待すること

Q&A

(回答:今野氏)

Q 人材育成のことを意識されて「こえる場！」に参加されていましたか？

A グループワークの発表など、普段経験できないことができる場でもあり、人材育成につながっていると考えています。

(回答:伊窪氏)

Q 災害時の支援のアイデアを教えてください！

A 離乳食の形態とソフト食等の高齢者の食事形態が似ているため、栄養士が持つ情報等を発信できるかもしれないと考えています。

(回答:石原氏)

Q オフサイトミーティングとは？

A 「あしやたがやす」という名称で、企業・団体・市等が参加し、やり方を変えつつゆく継続して開催しておられますので、参加できるときに参加してみてください！

(回答:伊窪氏)

Q 今後も、ふらっとキッチンで何か企画をしていただけると期待してよろしいでしょうか？

A ローリングストック法のように日々の積み重ねが重要であることのPR等、継続していろいろな企画をしていきたいと思います。

決意表明

(今野氏)

時間が許す限り、人材や協賛品等で協力をしていきたいと思います！

(伊窪氏)

いろんな場に出掛けて、意見を伺いながら、地域のニーズを受け止め、寄り添いながら取組を進めていきたいと思います！

(石原氏)

どうすれば短時間でアウトプットが出せるか等をディスカッションすることから始めたいと思います！

(中西)

今後も色々な提案をいただけると嬉しいです。フラットに付き合っていける取組になればと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

さいごに

(鳥越)

来年度は、行政改革の推進期間3年目となります。ゆっくりつながりを広げながら、市民のためにできることをみなさんと考え、取り組んでいきたいと思っています。

(細井)

「『こえる場！』に困りごとを持ち込んだら、解決に向けた道筋が見える。」という機能が果たせたらと思っています。3年目以降は、「こえる場！」が当たり前にあると認識してもらえような活動を行っていきたくて考えております。

今後の取組に向けて



日本福祉大学
平野 隆之 教授

「こえる場！」は行政から垣根をどう「こえる」のかという観点で

ネーミングされたものです。

事務局と「こえる場！」の準備を進めるなかで、本当にうまく行くのかと始まる直前まで不安に感じていた部分もありました。

しかし、みなさんの視点から、みなさん自身のことばで今年度の取組をご報告いただき、行政に限らず、様々な企業・団体等からも「こえる」という視点で取り組まれた素晴らしい取組であり、この方向性でよかったと安心しました。

この「こえる場！」は様々な自治体が見学に来られ、実際に実施された自治体もあります。様々な企業・団体等が参加しているのは、芦屋ならではの特色ですが、自治体の特色のある「こえる場！」の取組が全国に広がっていったら良いと思います。

「こえる場！」懇親会

「こえる場！」開催後、市役所の食堂にて、懇親会を開催し、総勢47名の方に参加していただきました。



懇親会から参加してくださった(株)フィッシングマックスの方々よりご挨拶をいただきました。



企業・団体・行政等の垣根をこえて、仕事の話や趣味の話など、様々な話題が飛び交っていました！



会議でお疲れのところ、また、お忙しい中多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。このご縁を大切にしていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

< お問い合わせ >

芦屋市福祉部地域福祉課

TEL:0797-38-2040

／ FAX:0797-38-2060

／ Mail:chiikifukushi@city.ashiya.lg.jp